

は、米国セントルイス市にて開催された  
万国博覧会に「秋汀群鴨」を出品して、  
銀牌賞を得られた。その後、多くの名作  
を画かれ、帝国美術員会員として活躍さ  
れた。晩年に『東洋画論』という著書が  
ある。その中に、たとえば松を画く場合  
(私共の大学の会議室に、荒木十畝の松  
の図がかけられている)、あらゆる松を  
研究してそれぞれの松の形と生活を諒解  
しておかねばならぬことを説く。野辺の  
稚松、懸崖松、海浜松それぞれに異なる  
生活の正直なありのままの姿の告白であ  
り、自然は言葉なくして形を以て告げる  
と言う。一本の松の幹を画くにも、これ  
だけの根底のあることを知らされて心を  
動かされた。幼児教育の研究というの  
も、これに共通したことがある。この創  
刊号の表紙は、当時は地味すぎて評判が  
よくなかったらしいが、幼児教育研究誌  
の第一頁にふさわしい画家の作品である  
と思う。

倉橋惣三が編集者となつて間もない十

二巻四号には、スタンレー・ホール氏の  
「幼稚園の教育」の紹介がある。「幼稚園  
は子供に対する新たな世界であります。  
一度は人工的であった幼稚園は、今漸く  
にして自然のままな原始的生命を復活し  
て来たのであります。」「吾々はも早や、  
牧歌を歌う詩人たる者はありません。」  
: 温室も芝生も、運動場も木蔭も、小川  
も池も、皆その中(幼稚園)に備つてい  
ます」と述べて、幼稚園は子どもを室内  
から解放して、戸外の自然の中で遊ばせ  
ることの必要を論ずる。「新たなる幼稚  
園の機運は、この旧套を破つて、真美な  
る大自然の心と合致するものでなければ  
なりません。」こうして幼稚園の新教育の  
幕が開かれる。

「幼児の教育」誌の復刻は、それから  
ほぼ八十年を経た現代に、幼児教育のス  
ピリットを伝えてくれる。年頭にあた  
り、関係者の御尽力により、本誌の復刻  
刊行の大業がなされることを心から祝う  
ものである。

## 幼児の教育 第七十八卷第一号

一月号 ◎ 定価二五〇円

昭和五十三年十二月二十五日 印刷  
昭和五十四年一月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼  
发行人 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発行所 株式会社 フレーべル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売  
所フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。